

# ゆうかり放送委員会提供 ゆうかりに乾杯

第138回放送の概要（2018年10月27日放送）

## パーソナリティ

たろう

（佃 由晃）

なか

（中嶋邦弘）

かりん

（妹尾優香）

くらら

（河野真紀）



## ミキサー

門ちゃん

（門田成延）

## 会計

小山俊則

## 相談役

わだかん

（和田幹司）

## 1. ゲストコーナー（1）社会福祉法人 NPO リーフグリーン理事長 吉本加津子さん

本日のゲストは、たかとりコミュニティセンター（TCC）の団体の一つ、暮らしと介護のお手伝いの、NPO法人リーフグリーン理事長の吉本加津子さんです。

——最近、周りで介護をしている人も多くて、我が身の事として考えることが増えています。介護保険を簡単におさらいします。まず介護保険料を払うのは40歳から、介護を受けられるのは65歳から、ただし16の特定疾患の場合はこれ以下でも援助を受けられます。受けるときには1割から3割の支払となります。それには認定が必要で、7段階、要支援が①と②、要介護が①から⑤に分かれています。今日はこの辺りのお話を聞かせて頂きます。

なお、今日の放送は「You tube」でも配信しています。

### （1）阪神淡路大震災時の状況

結婚してから大田町（須磨区）に住んでいました。結婚前は垂水でした。震災時は、子どもが6人、高1から小2を育てている時でした。ちょうど震災前に家を建て替えたところで、家族は全員無事。建物も無事でしたが、周辺の家と同様に家の中は家具や冷蔵庫、ピアノが全部倒れ、かなり被害はありましたが、生命が助かったのは大きいことでした。火事も多く発生し、1町近くまで火の手がやって来て、何を持って逃げようかと、写真やら子どもの制服やら取り出していました、延焼しなくて助かりました。

私は元々ヘルパーをしており、利用者の安否が心配で確認に走り回りました。またたかとり教会が気になってやって来たが焼け落ちていて、途中も電線が垂れ下がり、見たこともなかった戦後の焼け野原とはこんなだったか、と強烈に思いました。

——すぐに色々な活動を始められたのですか？

1日目は余りの出来事に放心状態で、みんなで近くの中学校へ避難。私の兄弟たちが駆け付けて、子供たちを連れて帰ってくれました。避難所の中では寝ることさえできない状態でしたから、みんな座って過ごしていて、子供たちには大変だったようです。色々な方に助けて頂き、子供たちと離れて私と主人は避難所で1週間居て、その後自宅へ戻り、ライフラインは未だでしたが、自宅の方が楽でした。食べ物は、みんながあちこちから持ってきてくれました。近所では3軒ほど残っていたので、みなさんで卵とかパンとか分け合って生活していました。

——教会には、たかとり救援基地ができていましたね。

震災直後に立ち上げ、しばらくして基地の応援に来て、「まちの保健室」という活動を、仮設住宅の方や復興住宅の方のお手伝いなどやっていました。ヘルパーはずっと続けていたんです。日曜日毎に救援基地に来て、時間が空いたら食事作りなどお手伝いしていました。



近隣の状況



たかとり教会焼失

## (2) リーフグリーンの設立

——震災後の活動が蓄積されて、リーフグリーンの設立に繋がった？

教会の信者さんの中では高齢者が多く、介護保険制度が始まってもそれだけで生活できないことが分ってきましたし、まして1人で活動しても少しのことしかできませんので、助け合いシステムを作る必要がありました。10人だったら助けられても、逆の1人では無理です。

そうするうちに、活動を始めて5年ほど経った2000年に神田神父さん（たかとり救援基地代表）から「まちの保健室」を恒久的なものにしないかと言われました。神田神父さんを中心に聖書勉強会をやっていた教会仲間の友人たち4人でそれぞれ得意なものがあって、意気投合して立ち上げました。ヘルパーさんも多く集まっていたし、資格を取りに行ったときの仲間も連れてきて、賛同者が50人ほど全員会員に



設立当初のメンバー

なっただき、始めることができました。

リーフグリーンの名前は橋本千影さんの発案で、神田神父さんがミサの中で話していたレオ・レオーニさんの絵本「あおくんときいろちゃん」の中で、二人が仲良く遊んだら綺麗な緑色になっていた、ということから私たちもお互いの個性を大切にいい関係をつくって行こう、と名付けました。



リーフグリーンの看板

——リーフグリーンのメインの活動は何でしょう？

最初から二本柱で、一つは私たちいろいろな支援に「出掛けて行く活動」、もう一つは、昼食会や近くの公園で野点の会やバザーなどみなさんに来て頂く活動で、「ふれあい活動」として設立当初からやってきました。



移送サービス



野点の会

出掛けて行く活動には介護などが含まれています。また、介護保険から外れた方の支援も、特に障害をもっておられる方には支援制度がなかったため、私たちは障害者の介護チケットを利用してコンタクトを始めました。3年後に「支援費制度」に変わって行政から委託で資金が供給されるようになって、運営の資金繰りもうまく行くようになりました。

最初の頃は有償ボランティアをやっていた訳ですが、5階建ての階段だけの5階へ、後ろからも支える2人がかりで背負って病院への通院を支援したり、大変でした。特に制度から外れた方々を支援していました。2000年ではまだNPO法人ではなく任意団体で、障害者を支援するための神戸市の指定を受けるために、たかとりコミュニティセンター（TCC）で申請してその中のリーフグリーンとしてやっていました。けれども、理事長印（当時、神田神父は大阪でした）を必要とする行政手続きがよくあって大変な手間でしたので、自分たちで法人格を求めて2005年にNPO法人化しました。損保ジャパンが支給してくれるNPO設立支援助成金を申請したら採択されたのが契機になって設立しました。

### （3）リーフグリーンの組織・運営

NPO 法人は、理事長1、副理事長1、理事7人の9人と顧問1、監査1、理事を含めた運営スタッフ15人で、その他登録、有償ヘルパーさん、有償ボランティアさん、子育て保育さんを合せて、40人超が働いています。最初から対等の立場で助け合うのが基本に会員制をとっています。現在、利用する人も活動する人も200人余り全て会員ということです。

運営の経費は年間2,800万円で、介護保険法と障害者総合支援法に決められている制度上の予算で国県市から支援活動に対して支払われるのが一番多く、80%ぐらい。あとは有償活動で100万円、残りは会費、寄付金、助成金です。ほとんどが人件費にかかります。

## 2. ミュージック：「空へ」アーティスト 岡田修

お送りしている曲は、津軽三味線奏者、岡田修さんによる「砂塵」です。

## 3. ゲストコーナー（2）

### （4）リーフグリーンの活動内容

——引き続き、リーフグリーンの介護保険、障害者支援、有償ボランティアなどのお仕事についてお聞きます。介護保険法が今年改正されたそうですが、そのポイントは？

最近支える側の若い人が減って高齢者は増えて、元気な高齢者が高齢者のお世話をしよう、また、介護保険がもうパンク状態だからできるだけ住民同志が支え合えるように持っていきたい、財源が厳しいから保険料が値上げされ、収入に応じて一部の人には負担を上げる、ということなんでしょう。

——介護予防、日常生活支援総合事業とは何でしょうか？

要介護と要支援があって、その軽いほうを介護予防と言います。要支援の方、要支援になる手前の方が利用します。各自治体が国の指針に基づいて独自に各事業をやっています。昨年4月から始まり、今年平成30年から本格的に切り替わるように求められています。

今までの要支援の方は、身体介護が伴えばそのまま日常生活支援をヘルパー資格者でなくても3日間の研修受講者でカバーできます。そんなに専門的でなくともある程度の知識を持っていれば高齢者の介護ができるようになりました。もう一つは、住民主体サービスで、これは私たちがずっとやってきていた有償ボランティアです。うち、1号サービスはお掃除とか通院補助とかゴミ出しとか、今までは介護保険でしてきたことです。1号サービス利用で2号サービスも受けられます。2号サービスには、ペットの世話とか、窓ガラス磨きとか、草抜きなどがあります。住民主体だけに全額自己負担になりました。今まで保険で一部負担（10分の1）で済んでいた利用者にとっては不満で、なかなか切り替えが進まないの、従来型の介護予防を残すことになってはいますが、いずれ移行したいのが法律の趣旨ですね。

この有償ボランティア扱いになると、利用が減ってヘルパーさんたちの収入にも響きます。切り替え移行の過渡期で難しい時期とは思いますが、行政も節約になった部分の一部500円でも事業ができるようにするとか、利用料の割引に充てることできないか、市には要望しているところです。

——ケアマネさんはどんなお世話をしているのですか？

ケアマネは介護認定のお手伝いをしています。代理申請や、認定介護度のサービス内容の説明、介護のプランづくり、事業者との交渉などあります。リーフグリーンには、ケアマネさんとか「安心す

こやかセンター」から依頼が沢山来ます。安心すこやかセンターは、神戸市の場合、中学校校区に1箇所あります。この地区では新長田にあります。困られた方はそこに相談に行けば受けられるサービスの案内や介護認定の申請の仕方など、窓口となって頂けます。

———障害者の方に対しては？

障害者の方のサービスは、重度の方の訪問介護、寝たきりの方、自分で食べられない方の食事介助など全部やらなければならないので、休みの日は無く、月に200時間以上の利用です。それから、移動支援、居宅介護なら洗濯とか掃除の家事援助の方、身体介護の方もあります。視覚障害の方の外出支援、同行援護なども。リーフグリーンには重度訪問介護の利用者が2人いらっしゃいます。

———有償ボランティアと会員を対象とした制度外の支援はどんなものが？

ホームヘルプでお掃除とか、家具の移動、庭の草抜きなど、でもいま一番要望があるのが「ゴミ出し」です。高齢になると荷物を持って歩くのが大変で、ゴミは重く、ましておむつを使用するようになるとずっと重くなります。そういう方のゴミをステーションまで出しに行くお手伝いです。1回200円、月に1,000円の定額。サポーターさんには1回100円支払って、後は運営やコーディネイトに充てます。このサポーターさんになり手が少なく、利用希望50人強に対してサポーターさん11、12人というところで、結局1人で5箇所ぐらい分担することになっています。ですので、サポーターとして登録していただける方を求めています。先日も神戸新聞に掲載していただきましたが、行政がこういったサービスの広報をどんどんやっていただきたいものです。登録された方と利用したい方のマッチングはリーフグリーンでお世話しています。



「ゴミ出し」  
します!

## ゴミ出しサポート

高齢、妊産婦、  
病気やケガで療養中、  
体が不自由、など  
理由は問いません。

Illustration of a diverse group of people (elderly, pregnant woman, disabled) standing together, with a trash bag and bin nearby.

### 「手伝ってもいいよ」という方、ご登録ください!

「ゴミを出す」という、生活に絶対に必要なこの簡単な作業に困っている人がいます。「ゴミ出し」に必要な朝の10分を、地域でお困りの方のために使っていただけませんか?  
1回100円ですが、利用者の心の負担を軽減するためにお受け取りください。あなたのご登録をお待ちしています。

登録 (無料)	活動
① 無料です。リーフグリーの事務所にお電話ください。 ② 保険は、「兵庫県ボランティア市民活動災害共済」を適用します。 ③ サポーターの個人情報を、利用者にお伝えすることは原則としてありません。	① 事務所よりサポート依頼の連絡をします。(可能ならお引き受けください。無理な場合は遠慮なくお断りください) ② コーディネーターが利用者にお引き合わせします。 ③ 利用者宅へ出向き、ゴミ袋を受け取ってゴミを出してください。

---

ゴミ出し料金の清算	お願い
ゴミ出し1回につき 100円をお支払いします。	① 指定のゴミ袋以外のゴミは、取り扱わないでください。 ② ゴミ出し1回につき、ゴミ出しカレンダーに確認印を押してください。 ③ ゴミ出し以外のことを頼まれたら、「相談窓口ご連絡してください」と言ってください。 ④ 困ったこと、心配なこと、気になることは何でも相談窓口にご相談ください。

———ふれあい活動として「サロンゆい」「ゆいカフェ」を運営されていますね。

木曜日限定で、「ゆいカフェ」を第1・第3の午前中にFMY局(2階)の下1階のカウンターバーで開催。コーヒー1杯100円お菓子付き、懐かしの歌をハーモニカ伴奏で歌ったりします。「サロンゆい」は午後、ミュージシャンに来てもらって演奏を聴いたり、手芸やお習字をみんなでしたり

の2時間。

——子育て支援の事業所内保育はいかがですか？

ヘルパーさんが高齢化して、若いヘルパーさんを集めたい。若いヘルパーさんは子どもができたらみんな辞めてしまうことが多いので、こどもが大きくなるまでリーフグリーンの事業所の隣の部屋で子供たちの面倒をみて、その間にお母さんたちはヘルパーとして活動できます。そうしたら、今まで積み上げてきた関係とか正確な技術とかレベルアップし継続できるので、事業所内保育を始めたのです。今、利用者は子ども5人、お母さん3人。そこの保育責任者は、3つ児のお母さんで、生まれた時に私たちが支援して現在は小6になっていますが、保育士の彼女は3年前からリーフグリーンに来て子育て支援を担当して頑張っておられます。



事業所内保育

そうやって、自分が世話を受けたところに恩返しに来られる子育て支援での助け合い活動が続いて行きます。これが理想なんです。

——苦勞は多かったようで、今この仕事を続ける上での課題、またそれに基づく行政への要望、リスナーのみなさんへ伝えたいことは？

こういう有償ボランティアをやっている団体が何箇所かありますが、特に震災を経験して立ち上げたところが多く、みんなで育て支援しなければ潰れてしまうので、みなさんに関心を持って協力できる場所は手伝っていただき、活動が継続できるように応援していただきたい。何かで働ける時はいつでもどうぞ。

また、介護の現場に携わる方々の働く環境として、休日が取りにくいことがあり、来年の10連休とかでは大変なことが予想されます。私たちは正月も休みなく、誰かが障害重度の方の支援に出向いていますが、例えば祝日とかでの報酬の加算などせめて考えていただきたいこと、また、事務処理で毎月の申請締め切りが10日というのも現場からしたらきついで、少し余裕が欲しい。行政にはその大変さを理解・配慮いただきたいものです。

なお、リーフグリーンの活動範囲は、須磨区・長田区・兵庫区をカバーしています。この地域外の方で利用を希望される方は、「ひょうごん福祉ネット」という神戸市内・阪神地域・東播磨臨海地区のいろんな同種団体とネットワークを組んでいるので、いろいろ紹介することをやっております。

——本日パーソナリティとして参加したクララさん、いかがでしたか？ 介護はまだ遠い話のようですが今日の感想は？

私はまだ40歳代で子どもはまだ中学生が一番上。両親とも高齢者で70歳代ですが元気で介護というところまで行ってなくて、出産される世代の知り合いも多いです。でも、子どもが赤ちゃんでお母さんが倒れられて入院とかでいわゆる二重苦で大変なケースもあります。自分の場合、子どもが3人で、3番目の子の時は記憶に無いくらいしんどかった。リーフグリーンの存在を知ったのも子ども

が幼稚園に入って大きくなってからでした。もし子どもが乳幼児の一番しんどい時に知っていたら、きっとこの辛い時に助けて欲しいと、3つ児のお母さんのように子育て支援をいただく機会があったでしょう。

行政などが用意したパンフ等よく見るほうですが、それでも知らなかった。困っている人に、困ってからでは遅いのでその手前のところで、親が倒れるとか何かあった時に、どこに助けて貰えるのか、先に知っておきたいものです。行政にももっとバックアップしていただけるように望みます。

#### **4. こぼれた話こぼれなかった話：災害ボランティア割引**

(1) 阪神淡路大震災や東日本大震災の経験から、災害ボランティアに対する交通・宿泊費軽減を求めて割引制度創設を4年以上前から、ひょうごボランティアプラザ関係者などが「災害ボランティア割引制度を実現する会」が働きかけていた制度が、今年7月西日本豪雨災害を機に発足しています。

(2) 「風聞被害」対策として観光客誘致のため、被災地への周遊旅行をすれば宿泊代金の一部を国が補助する制度「13府県ふっこう周遊割」（福岡、中国5県、四国4県、兵庫、京都、岐阜）活用した周遊旅行（ツアー商品）を旅行会社が販売します。

もちろん、ボランティア活動参加者もこれを利用できます。期間限定で8月28日以降の予約で、8月31日から11月30日の宿泊、連続2日以上宿泊した場合に1泊最大、激甚な被災を受けた岡山県、広島県、愛媛県6000円、その他は4000円を限度として割り引かれます。

(3) また、個人でボランティア活動に参加した際にも、宿泊費の割引が受けられるようになりました。周遊割引と童謡の期間限定ですが、連続2日以上宿泊した場合に1泊最大6000円を限度として割り引かれます。

ただ、手続きが必要で、ボランティア活動参加者が、①宿泊施設を予約し、②正規料金で先払いして宿泊証明書を受け取り、③ボランティア活動に参加して参加証明書を受け取り、④両方の証明書を添付して宿泊した施設の府県に提出申請して助成金交付を受けます。

(4) 交通費については、JR西日本が、岡山・徳山間から新大阪までの上り（西から東へ）の新幹線こだま自由席特急券代の約半分が割り引かれます。

北海道胆振東部地震については、公的機関発行のボランティア証明書等を提示してフェリー料金が割り引かれることになりました。

(5) このほかに、旅行会社が割引料金でセール・キャンペーンしている「被災地ふっこう応援クーポン」もあります。

#### **5. 地域瓦版**

「一七市拡大版 2018」のお知らせ：

あの日の思いやりの心を忘れぬために。風化させないで、その記憶。11月11日（日）10時から15時、新長田の鉄人広場にて、福祉事業所の自主製品の販売など各種屋台、ステージでは池田小学校3・4年生有志のエイサー（沖縄舞踊）、長田中吹奏楽部の演奏、展示では神戸長田の水害の記憶、AED講習会 など盛り沢山。

放送音声は、FMYYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。

<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51>

<http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/>